

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	竹 内 恵 美
論文審査担当者 主 査 精神神経科学 三 村 將 国立がん研究センター研究所 北 林 一 生 産婦人科学 田 中 守 医療政策・管理学 宮 田 裕 章 リハビリテーション医学 辻 哲 也 学力確認担当者： 審査委員長：田中 守 試問日：2021年 2月 1日				
(論 文 審 査 の 要 旨) 論文題名：The effects of an educational program for non-physician health care providers regarding fertility preservation (妊孕性温存に関する一般医療従事者に対する教育プログラムの効果検討) 本研究では、若年がん患者の妊孕性温存に関する支援を普及させることを目的に、医師ではないメディカルスタッフに対する教育プログラムを開発し、その評価を行った。その結果、教育プログラムは、参加者の妊孕性温存に関する相談を受ける自信や知識を高め、施設内での普及活動や自己啓発の行動を増やした。しかし、実際の相談件数の増加や組織環境の改善は見られなかった。 審査では、初めに今後の教育プログラムの改善方法について問われた。妊孕性温存の支援の普及を目指す上では、実際の相談件数の変化や施設内での設備の充実等が最も重要であり、それを改善するにはロールプレイ等の実践的なコンテンツを加え、相談を受けることの抵抗を軽減させるという考えが回答された。今後の更なる展開にアプリの活用の可能性が提案され、それに対して、構造化できる介入についてはアプリやブックレット等を活用して普及させたいという考えが回答された。 次に、知識や自信などの評価指標の設定について問われた。評価指標はオリジナル尺度であるが、教育プログラム開催前に、対象者と想定される医療従事者に対するフォーカスグループインタビューおよび様々な領域の医師等によって構成される専門家パネルを経て、評価指標を作成し、その信頼性をCronbach's alpha係数を算出して示したことが回答された。eラーニングやHPの利用など今後の方向性について問われ、研修会の映像はYoutube動画としてホームページに掲載していることが説明された。 次に、Dissemination and Implementation (D&I) 研究に関するPubmedでの検索方法や、その研究領域の発展状況について問われた。D&I scienceというキーワードで検索しているが、多くのD&I研究はその理論やモデルを活用していることからその領域の研究であることを確認できること、Implementation Scienceなどの専門雑誌が発行されていることが説明された。また、D&I研究の戦略方法は、まだまだ発展段階の印象であり、システマティックレビュー論文等が最近発行され、徐々に最適な方法が構造化されつつあると回答された。 妊孕性温存の支援の発展と普及に関して、様々な提案が挙げられた。教育プログラムの展開方法として医師を含めたチーム研修、妊孕性温存支援の方向性としてはLGBTやがん治療を終え妊孕性喪失されている患者など焦点が向けられない患者の社会的受け皿になる支援の展開の必要性が問われた。そのような取り組みが必要であることが共有され、今後の研究の展望として検討すると回答された。 以上、検討すべき課題を残すものの、先行して実施された複数の研究の知見を踏まえて行われた本研究は、緻密に計画が立てられて実施されている点において有意義な研究であると評価された。また、多職種のメディカルスタッフが関わる妊孕性温存支援の、我が国における実装と普及のために役立つ研究であることも評価できる点とされた。				